野木町国際交流協会会報

きずな

2020年　春号

VOL 17

2020年5月00日発行

野木町国際交流協会【NIA】
発　行：野木町国際交流協会情報交流部　所在地：栃木県下都賀郡野木町丸林571 野木町公民館内
TEL 0280-57-4188　http://nogitown.hacca.jp/　MAIL itoh_masa@yahoo.co.jp

座談会

５年間技能実習生として野木町で働き、日本語教室で勉強し、
今年帰国される３人の女性にインタビューをしてみました。

出席者

サムシアさん
ユニアニさん
ティカさん
（いずれもインドネイアの女性です）

聞き手：　野木町国際交流協会　日本語教室　川島良一

テ ー マ：日本で生活した５年間の思い出

聞 き 手：まず、皆さんは、日本は初めてですよね。
どんな印象をもちましたか？

テ ィ カ：高いビルや大きなビルの多さにびっくりしました。
それと、渋滞もなく車が走っているなんて信じられませんでした。
ジャカルタの名物は、一日中続く長―い渋滞ですから（笑）

聞 き 手：ユニアニさんはどうして日本に来ようと思ったの？

ユニアニ：インドネシアにも仕事はたくさんあるのですが、仕事の無い人が多くなかなか見つからないのです。それと給料は安いし。

聞 き 手：だから、日本なら仕事もあり給料も良いと思い、思い切って日本に来たわけだ。

聞 き 手：成田について国に電話した？
サムシア：携帯がないから一番安いカードで「もしもし、着いたよ。ガシャン」で終わり（笑）ただ、大きい会社にはいろいろなルールがるので、それに慣れるのが大変です。
聞 き 手：来日前にインドネシアで日本語や日本の文化等を勉強してきたと思うのですが、来日後の管理団体での１カ月間の勉強はどうでしたか？
ユニアニ：大変でした。座学では眠くなるし、食事も味付けが違い日本の食べ物に慣れるのに苦労しました。休みの日にも外出できないのです。それでも頑張りました。
聞 き 手：１ケ月の研修を終えて野木町に来た時の最初の印象は？
サムシア：小さな町だなーと思いました。人もあまりいないし。でも、アパートに初めて入ったときには思わず「ヤッター」と叫んでしまいました。管理団体の狭い寝室やベットに比べて、寝室は二人でゆっくり寝られる大きさですし、そして、なんと台所の清潔なことか。二人だけで使えるなんて夢みたいでした。
聞 き 手：それは良かった。さて、いよいよ会社に行くわけですが、自転車で行ったの？仕事はどうでしたか。すぐに慣れましたか？
ユニアニ：皆さんすごく親切で丁寧に仕事を教えてくれました。
だから、失敗を恐れず仕事が出来るようになりました。
でも、最初は言葉がなかなか通じないので、これから先どうなってしまうのだろうと不安で一杯でした。
サムシア：それと、職場がきれいに整理整頓されているので、仕事をしていて気持ちがよかったです。インドネシアの会社も見習うべきだと思いました。
聞 き 手：すべてが良かった？
ユニアニ：私たちはイスラム教徒なので、一日に５回礼拝します。ほとんどの方は理解を示してくれましたが、二人の方はなかなか受け入れてくれませんでした。
それでも少しずつ分かっていただき、今では、職場の礼拝は当たり前になっています。本当に感謝しています。
聞 き 手：野木町にはハラルの食べ物は売ってないと思いますが、ランチはどうしているの。
ティカ：　お菓子を食べてランチの代りにしています。
ユニアニ：私はご飯を炊いてお弁当を持っていきます。
サムシア：私もご飯のお弁当を持っていきます。
聞 き 手：さて、初めていただいた給料はどうしました？
ティカ：　「しまむら」で洋服を買いました。それと、日本に来るときにあまりお金を持ってこなかったので、貯金をしました。国にも少し仕送りしました。
聞 き 手：偉いなー。ところで、もうすぐ国に帰るわけですが、もう一度日本に来たい？
ティカ：　私は日本の四季が大好きです。今度日本に来られたらいろいろなところに行きたいです。
サムシア：日本が大好きになりました。みんな良い人ばかりですから。また来たい。
聞 き 手：国に早く帰りたい？　それとも日本にいたい？
ユリアニ：日本の素敵な男性と結婚して日本で暮らしたいです。

最後に、今回の女性たちは後から来る後輩のために、良き先鞭をつけてくれました。
明るく、屈託のない笑顔の裏には大変な苦労が隠されているのかもしれません。
でもそんなことはおくびにも出さず、私たちに笑顔で答えてくれました。
本当にありがとう。これからの活動を期待しています。

日本語スピーチコンテスト

２月２日に栃木市国際交流協会にて行われた「日本語スピーチコンテスト」に、昨年に引き続き今年も当協会の日本語教室の生徒が参加しました。総勢２０名の参加者から、準優勝の「栃木ソロプチミスト賞」を受賞しました。下記が生徒のスピーチ内容です。

家 族 へ

　こんにちは。 私はヌルル　ヒダヤともうします。
日本ピストンリングの技能実習生として、２０１７年５月にインドネシアから来ました。私は家族の２番目の子供、長女として生まれました。２歳違いの兄がおりました。彼は、家族思いで、賢くとてもやさしい人でした。私はそんな兄が大好きでした。私が５才のある日、兄が突然倒れてしまい、病院に連れて行きました。医師からは末期脳腫瘍で、手術の結果は保証できないと告げられました。両親は兄を家につれて帰ることを選びました。翌日、家に帰れた安心からでしょうか、兄は眠るように息を引き取りました。当時の私は幼く、死が何か分からなかったのですが、父と母が泣き続けていたので私も泣きました。兄の死から母はとてもかわってしまい､前よりきびしいお母さんになりました。母は、私たち子供が、自立して、強く生き抜くことを望んだのだと思います。私は母にたくさんの家事を教わりながら育てられました。掃除、料理、衣服のアイロンがけなどたくさんの家事を教わりながら育てられました。

　ある日、朝食の時に妹が「きのう、夢を見た。大きな地震があり、家が倒れ、お母さんが亡くなった」と言い出しました。それを聞いた母は、「大丈夫、死ぬ夢をみると、長生きする」と答えました。その会話の一週間後、２００６年５月２７日早朝ジャワ島の大都市の一つであるジョグジャカルタという、私の町で大地震が発生しました。多くの家が倒壊し、私の家も崩壊しました。死者は約 5000 人。母も犠牲者の一人でした。一週間前に妹が見た夢が現実になってしまいました。当時私はまだ１５歳でした。父を助け、二人の兄弟を育てなければなりません。しかし、その時は何も考えられず、ただ泣くことしかできませんでした。母のいない人生は考えられなかったのです。

　しかし、父は違いました。父は強く、働き者で、そして信仰心の厚い人です。「神はお母さんをたくさん愛してくれたので、神ご自身の所に引き寄せたのですよ」と私達に言いました。母が子供の私にすべてを教えた理由がやっと理解できました。それ以来、私は母と姉という立場になりました。一方、父は私たち三人を育てるため、夜遅くまで夢中に働いていました。息子を亡くし、妻を失い、深い悲しみの中で私たちを愛してくれました。父には少しでも幸せになってほしい、たくさんの親孝行をしたいと思うようになりました。そんな時、父のため家を建てることを夢見るようになりました。

　しかし、高卒の私には家を建てるお金はありません。妹と弟の学費も助けなければなりません。豊かで、高い技術を持つ日本で働くことで、夢をかなえたいと思いました。
当時インドネシアの法律では 20 を過ぎないと日本に行くことができませんでした。マレーシアで４年余り働き、そして技能実習生として日本に来ることができました。
会社で一生懸命働いて、毎月仕送りし、そして去年父に、念願の新しい家をプレゼントすることができました。兄そして母、肉親の死は、とても、とても悲しいことです。しかし、愛する者の死が家族の尊さを教えてくれました。
お母さん、お兄さん、ありがとう。家族は私の誇りです。
ご清聴ありがとうございました。

忘年カラオケ大会

令和元年１２月１５日（日)、午前中の日本語教室が終わってから、丸林西会館をお借りして、生徒達の忘年カラオケ大会を行いました。日本語の会話はまだまだ不十分ですが、日本語の歌は上手に歌いこなしておりました。日本に興味をもっていれば、日本語の習得も早いでしょう。

マラソン大会

１１月２４日のマラソン大会にインドネシアとタイの生徒が出場したが､当日は雨で且つ気温が低かったので、思ったような結果が出せませんでした｡日本の人たちは、仕事ばかりでなく駆けるのも速いですね。

駅伝大会

１月１９日の駅伝大会には、タイの生徒７名が参加しました。当日の天気は快晴、駅伝日和でしたが。
走った結果は、・・・・・・
ブービーメーカーでした。来年も参加し、順位を上げたいと思っています。

『英会話による煉瓦窯案内ボランティアガイド養成講座』

2019 年度「英会話による煉瓦窯案内ボランティアガイド養成講座」は意欲的な８名の参加者が集い、充実した講座が開催されました。講師には今回お骨折り頂いた橋本先生、英会話担当のジョイス先生、煉瓦窯を愛する会の安部先生と多彩な顔触れの中、楽しく且つ有意義に無事講座が終了しました。

お願い

技能実習生等、野木町に住む外国人が年々増えてきております。
野木町国際交流協会では、外国人と交流したい方や、彼らが日本語を学ぶ手助けをしたい人たちを募集しております。
ご興味のおありの方は、野木町生涯学習課内野木町国際交流協会（0280-57-4196）迄ご連絡ください。